

公明党

東日本大震災復興加速化本部長

井上 義久 様

要 望 書

平成31年3月3日

福島県南相馬市長 門馬 和夫

東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から8年が経過しようとしている現在、本市は、市民が安全・安心に住み続けることのできる環境を取り戻すため、各種復興事業に全力で取り組んでいるところです。

しかし、近隣自治体から約3千人を超える避難者の受け入れが進む一方で、今なお約6千人の市民が市外での避難生活を余儀なくされております。

市内における避難指示解除後の区域については、1月末現在で約3千6百人（震災前居住人口約1万4千人）の住民が帰還しているが、いまだ震災時の25%程度に止まっており、生活の再開、生業の再建、まちの再生など解決すべき諸課題がまだまだ山積しております。

本市の復興を加速化させるとともに、復興・創生期間後も切れ目なく継続的な支援が必要であることから、下記事項を確実に実現するよう要望します。

記

1 被災地の要望として

【復興庁後継組織と財政支援】

被災地の聞き取り調査を十分に踏まえ、2021年度以降の復興施策推進に向けて、復興庁後継組織の在り方を早急に示すこと。また、被災市町村の現状に即した切れ目ない財政支援を行うこと。

2 浜通り地方の要望として

【JR常磐線の全線再開と特急列車等の運行】

JR常磐線は、福島県浜通り地方において極めて重要な交通インフラであり、復興を加速化させていくためにも、全線再開及び利便性の向上は必須であることから、2019年度末までの全線再開実現に向けた取組に努めるとともに、福島県浜通り地方と東京を直通で結ぶ特急列車や、福島県浜通り地方と仙台を結ぶ快速列車など、震災前より利便性の向上を図ること。

また、線形改良や道路との立体交差等による高速化など、単なる復旧にとどまらない基盤強化を図ること。

3 南相馬市の要望として

3-1【主要アクセスポイントと拠点をつなぐアクセス道路の支援】

福島復興再生特別措置法に基づく福島復興再生基本方針に即して、内閣総理大臣の認定を受けた重点推進計画に基づき、常磐自動車道のインターチェンジから各拠点へのアクセス機能、及び各拠点間を結ぶアクセス道路網の強化を図るため、福島ロボットテストフィールドと南相馬インターチェンジを結ぶインターアクセス道路（都市計画道路下高平北長野線）早期整備のため十分な支援を行うこと。

3-2【スマートインターチェンジと魅力ある教育・子育て環境の支援】

小高区の地域振興、支援活動及び緊急時の避難路の確保のための「(仮称)小高スマートインターチェンジ」を小高区に設置すること。

また、教育施設が集中する小高区中心部（文教ゾーン）では、認定こども園の整備をはじめ、公立学校の適正化などを進めながら、教育・子育て環境の充実が図られるよう努めているところであるが、福島ロボットテストフィールドと小高小・中学校、小高産業技術高校の連携による人材育成も含め、教育施設の整備・活用のための支援を行うこと。

以上